

W4 日本語から見た主題と焦点

インドネシア語の主題と焦点

原真由子(大阪大学)

はじめに

- 本発表：主に語順からインドネシア語の主題と焦点を捉える。
- 本発表の主張：インドネシア語の主題と焦点を表す手段は主に語順によるものであり、いずれも文頭に近い位置に置くことによって表される。

インドネシア語の主題

インドネシア語の主題を表す手段

- 日本語の主題標識「は」のような明確な形態手段に乏しい。
- 主題を文の前の方に置くなどの語順の変更を手段とする。
- 基本的には主語は主題である。

Cole, Hermon, and Tjung (2005) 、Li and Thompson (1976)

- インドネシア語の基本的語順は、[主語－述語]であるため、主題は文頭の方に置かれやすい。

インドネシア語の主題：主語

(1) **Guru saya** Bapak Budi.

教師 私 Mr. 人名

「**私の先生**はブディ先生だ。」

(2) **Musuh kita** **adalah** laki-laki. (*Saman*, p.152)

敵 私たち copula 男

「**あたしたちの敵**は男なのよ。」(『サマン』, p.180)

(3) **Bapak Budi** sangat baik.

Mr. 人名 とても 良い

「**ブディ先生**はとても親切だ。」

- 他動詞文：目的語（動作対象）は、動詞の後の位置では主題となれない。能動文を受動文（目的語／動作対象が動詞の前に置かれる）にすることによって主題化される。

(4) **Saya** membaca buku itu.

私 読む 本 それ

「**私は**その本を読んだ。」（←あなたは何をしたのか。）

(5) **Buku itu** saya beli di Jakarta.

本 それ 私 買う で Jakarta

「**その本は**、ジャカルタで買った。」（←その本はどうしたのか／どこで買ったのか。）

インドネシア語の主題：形態的手段

- particleのsih、kan(口語)
- 接続詞(条件節を導く)のkalau (kalo)(口語に多い)

(6) Ah, gue sih minum orange juice, ice cappuccino. (Sneddon 2006: 126-127)

感嘆詞 私 sih 飲む

「あ、私はね、オレンジジュースとアイスカプチーノを飲む。」

(7) Kalau saya hanya kelas bawah. (Kompas 20040119)

もし~の場合 私 ほんの クラス 下

「私の場合は、ほんの下の階層にすぎない。」

主題をより明示するための任意の形態的手段

主語の主題性の高さ

- 主語が必ずしも主題であるとは限らない。

(8) Ohtani memukul homerun.

大谷 打つ ホームラン

主題なし:「大谷がホームランを打った」(実況中継)

主題あり:「大谷はホームランを打った」

- 主題性が高い文
 - 被害・迷惑を表す ke-an 派生語を述語とする文
 - ～は・・・が構文(二重主語文)
- 主題性が低い文
 - ada(ある・いる)、terdapat(ある・見受けられる)など

主題性が高い文：迷惑・被害のke-an動詞文

- 共接辞ke-anを用いた文(迷惑・被害を表す)は、「動作対象(目的語)について何があったか」を述べるのではなく、「誰(何)に何が起こったのか」を述べる構文である。

(9) **Saya** kecopetan dompet di dalam bis.

私 すられる 財布 で 中 バス

「**私は**バスの中で財布を盗まれた。」

(10) cf. **Dompet saya** dicopet di dalam bis.

財布 私 盗まれる で 中 バス

「**私の財布は**バスの中で盗まれた。」

主題性が高い文：二重主語文（～は...が構文）

- インドネシア語には、日本語の「～は...が構文」に近い文が認められる。主題となりうる要素には、所有者、目的語がある。

- 所有者が主題

(11) Guru itu nama-nya Pak Ali. 「その先生は、名前はアリさんです。」

先生 それ 名前-その Mr. アリ

(12) cf. Nama guru itu Pak Ali. 「その先生の名前はアリさんです。」

名前 先生 それ Mr. アリ

- 目的語が主題

(13) Surat itu, saya belum menerima-nya.

手紙 それ 私 まだ～ない 受け取る-それ

「その手紙は、私はまだ受け取っていない。」

(14) cf. Surat itu belum saya terima.

主題性が低い文

- 一部の自動詞は、主語が動詞より後にくる例が多い：特に【存在】
→主題を持たないことを表すと考えられる

[ada]—[主語] (主題なし)

(15) Ada apa di atas meja? (*Apa ada) 「何が机の上にはあるの。」

ある 何 で 上 机

(16) Ada buku di atas meja. 「本が机の上にある。」

ある 本 で 上 机

[主語]—[ada] (主題あり)

(17) Buku-mu ada di mana? 「君の本はどこにあるの。」

本-あなた ある で どこ

(18) Buku saya ada di atas meja. 「私の本は机の上にある。」

本 私 ある で 上 机

(19) Di rautnya terdapat kerut yang menggurat kuat tepat di
で 彼の顔 ある 皺 関係詞 引っ掻く 強く ぴったり で
pangkal hidung, ... (*Saman*, p.41)

根元 鼻

「その顔のちょうど鼻元にはくっきりと刻まれたしわがあり、～」
(『サマン』, p.50)

(20) Terjadi perbedaan kepentingan antara pusat dan daerah.
起きる 違い 利害 間 中央 と 地方
(*Kompas*, 2004.03.31)

「中央と地方の間に利害の違いが起きている。」

主題を持たない文の述語

インドネシア語の無題文(語順): 存在(adaある、terdapatある)、出現(muncul現れる)、できごとの発生(terjadi起きる)、知覚(terlihat見える、terdengar聞こえる)

日本語の無題文(「が」): 存在、出現、できごとの発生、知覚、できごとの終了、状態の変化、動作(野田 1996)

スペイン語の無題文(語順): 存在、出現、できごとの発生、知覚(野田 1994)

インドネシア語の焦点

インドネシア語の焦点を表す手段

- インドネシア語の焦点は、基本的な語順とは逆の[述語－主語]とすることによって、述語が焦点化されることが多い。
- さらに、-lah(平叙文の場合)/-kah(疑問文の場合)も付加されうる(focus marker: Cole et al. 2005; predicate marker, foreground marker: Sneddon et al. 2010)。
- 分裂文がよく用いられる。

インドネシア語の焦点：述語(-lah/-kah)

(21) Orang itu(-lah) ayah-nya. (降幡 2016: 200-201)

(*Ayahnya orang itulah.)

人 それ-lah 父-彼(女)

[述語] [主語]

「あの人だ、彼(女)のお父さんは。／あの人**が**彼(女)のお父さんだ。」

(22) Lalu datang-lah saat bersalin. (*Saman*, p.54)

それから 来る-lah 時 お産する

「そして、いよいよお産の**時**が**やってきた**。」(『サマン』p.65)

(23) Takut-kah aku? (*Saman*, p.62) (*Aku takutkah?)

怖い-kah 私

「怖がっているのか、ぼくは？」(『サマン』p.74)

(24) Siapa(-kah) anak kecil itu?

誰-kah 子供 小さい それ

「その小さな子は誰か。」

(25) cf. Anak kecil itu siapa?

子供 小さい それ 誰

疑問詞が述語である場合、[述語—主語]の語順が多い。

インドネシア語の焦点：分裂文

- 主語が主題である場合は[主語－述語]の語順であるが、主語が焦点化される場合、分裂文で表される。

(26) **Saya** membeli buku itu.

私 買う 本 それ

「**私**はその本を買った。」

(27) **Saya(-lah)** yang membeli buku itu.

私-lah 関係詞 買う 本 それ

[述語] [主語]

[焦点] [主題]

「**私**がその本を買ったのだ。／その本を買ったのは**私**だ。」

- 「誰／何が～するのか」という疑問文は、標準インドネシア語では、分裂文を用いる。焦点化される疑問詞(を含む句)には小辞-kahが付加しうる。

(28) Siapa(-kah) yang membeli buku itu?

誰-kah 関係詞 買う 本 それ

「**誰**がその本を買ったのか／その本を買ったのは**誰**か。」

(29)= (26) Saya(-lah) yang membeli buku itu.

私-lah 関係詞 買う 本 それ

「**私**がその本を買った。／その本を買ったのは**私**だ。」

(30)=(24)cf. Siapa(-kah) anak kecil itu?

誰-kah 子供 小さい それ

「その小さな子は**誰**か。」

まとめ

- 主題の手段：
 - 語順（主に主語と一致、文頭）
 - 主題をもたない文：【存在】の動詞（主語が動詞の後）
- 焦点の手段：
 - 語順（主に述語と一致、文頭）→デフォルトの語順から変える
 - 小辞-lah/-kahと共起しやすい（特に自動詞の場合）
 - 分裂文

参考文献

- Cole, P., Hermon, G. and Tjung, Y.N. (2005) “How Irregular is WH in Situ in Indonesian?”, *Studies in Language*, 29-3, pp.553-581.
- 降幡正志 (2016)「インドネシア語の情報構造と名詞述語文」＜特集「情報構造と名詞述語文」＞、東京外国語大学『語学研究所論集』第21号、pp.191-204.
- Halim, A. (1974) *Intonation in Relation to Syntax in Bahasa Indonesia*. Jakarta: Lembaga Bahasa Nasional Departemen Pendidikan dan Kebudayaan.
- Li, C.N. and Thompson, S.A. (1976) “Subject and Topic: A New Typology of Language”, in C.N. Li (ed.), *Subject an Topic.*, New York: Academic Press, pp.457-489.
- Kompas, PT Kompas Media Nusantara.
- 野田尚史 (1994)「日本語とスペイン語の無題文」『日本語と外国語との対照研究I 日本語とスペイン語(1)』(国立国語研究所報告108)、pp. 83-103、国立国語研究所.
- 野田尚史 (1996)『「は」と「が」』(新日本語文法選書1)、くろしお出版.
- Sneddon, J.N. (2006) *Colloquial Jakartan Indonesian*. Canberra: Research School of Pacific and Asian Studies, The Australian National University.
- Sneddon, J.N., et al. (2010) *Indonesian: A Comprehensive Grammar*. 2nd edition. London: Routledge.
- Utami, Ayu (1998) *Saman*, KPG (Kepustakaan Populer Gramedia).
- アユ・ウタミ(2007)『サマン』竹下愛(訳)、木犀社.